

～相模原地域連合 2020ピースウィークメッセージ～
相模原地域連合組織内議員、協力議員からのメッセージ



『2020ピースウィーク メッセージ』

広島、長崎に原爆が投下されてから75年が経ちましたが被爆者はいまだに原爆症で様々な障害に苦しめられています。相模原でも被爆者は高齢化の中で、被爆体験を風化させてはならないと訴え続けています。私たちが被爆者を応援し、連帯し、ともに、核兵器を地球上からなくす活動を積極的に進めたいと思っています。

相模原では例年7月、「核廃絶を求める平和行進」や「被爆者救援街頭カンパ活動」「げんばく映画会」などを行ってきました。コロナ禍で、なかなか思うような活動はできませんが、原爆映画会「ひろしま」の上映会だけは、8月1日午後と夜に、相模大野のグリーンホールで上映する予定です。

また、相模原は3つの米軍基地を抱え、市民生活に大きな影響を及ぼしていますが、基地に関する課題は山積みです。市民の上空を米軍ヘリやオスプレイの訓練が続いています。平和のために、原爆被害を風化させず、戦争をなくすために、これからも粘り強い活動を続けます。

令和2年8月

相模原市議会議員 金子 豊貴男



『2020ピースウィーク メッセージ』

日本是世界で唯一の被爆国です。

広島と長崎に原爆が投下されてから75年。唯一の被爆国に生まれた私たちは、原爆の悲惨さと平和の尊さを後世に伝える義務と責任があります。

例年参加している『連合神奈川のピースウィーク』ですが、新型コロナウイルス感染症の影響によって、今年は残念ながら街頭で直接市民に訴えることはできませんが、私たちにできることはたくさんあります。

子どもに原爆の実態を伝えたり、SNSで発信したり、それぞれの立場でピースウィーク行動を実践すべきだと考えます。

2017年に核兵器禁止条約が、国連本部で122の国と地域によって採択されたにもかかわらず、未だに批准したのは38の国のみです。残念ながら唯一の被爆国である日本も批准していません。

相模原市は1984年に『核兵器廃絶平和都市宣言』をし、核兵器廃絶と恒久平和を願って啓発活動をしています。私も自治体の取り組みと連携するとともに、連合神奈川の取り組みに賛同し、自分なりのピースウィークを実践してまいります。ともに頑張りましょう。

令和2年8月

相模原市議会副議長 森 しげゆき



『2020ピースウィーク メッセージ』

今年2020年は広島、長崎に原爆が投下されて75年になります。75年の歳月の経過で核兵器の恐怖を直接体験された方々が少なくなっております。私たちの子や孫の世代が安心して平和に暮らしていくためには、核兵器の恐怖、戦争の恐怖の継承と核兵器廃絶に向けた啓発活動の必要性がますます高まっております。75年前の惨劇を繰り返してはいけなく、絶対に風化させてはいけません。我が国は、世界唯一の核被爆国として、世界の恒久平和を目指しており、連合神奈川も核兵器廃絶に向けて「ピースウィーク行動」として、街頭行動に取り組んできましたが、今なお、地球上には1万4525基、9か国が核兵器を保有している状況にあります。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、街頭行動はできませんが、今後も恒久平和の実現に向け、戦争の悲惨さや平和の尊さを世界や後世に発信し、核兵器廃絶に向けて訴えてまいります。

令和2年8月

相模原市議会議員 三須 城太郎



『2020ピースウィーク メッセージ』

連合神奈川相模原地域連合の皆様が核兵器廃絶に向け、毎年8月のこの時期に「ピースウィーク行動」に取り組んでおられることに対し、心より敬意を表します。

2017年、核兵器禁止条約が多くの国・地域の賛同を得て採択されました。日本政府は「核兵器のない世界」を目指すことを日本の責務と位置づけているにも関わらず、核保有国に同調し条約に反対したことは、本当に残念です。広島、長崎の被爆者が、壮絶な被爆体験を語り続け、核廃絶を求めてきたことを踏まえ、条約の前文には、「ヒバクシャが受けた、容認できない苦しみと被害を心に留める」と記されています。

日本こそが核保有国と非保有国の橋渡しとなり、国際社会の先頭に立って、核軍縮・核兵器廃絶を進めていくべきと考えます。今後とも、原爆の記憶を風化させずに語りつぎ、核兵器なき世界を目指して全力で努力を続けていくことをお約束いたします。地域連合の皆様の今後益々のご活躍をご祈念申し上げます。

令和2年8月

衆議院議員 後藤 祐一



『2020ピースウィーク メッセージ』

「ピースウィーク行動」は、核兵器廃絶に向けた国内外の世論を高める非常に重要な取り組みであり、私も毎年参加させて頂いております。広島と長崎の上空に人類史上初めて原爆が投下されてからとうとう75年もの月日が経過してしまいました。

未だに私たちは、この深刻な悲劇を産んだ核兵器を廃絶することが出来ておりません。核兵器を廃絶するため、迂遠なようで実はもっとも効果的なこと。それは、一人でも多くの人たちが、核兵器の脅威そして害悪を深く認識し、廃絶への願いを強く持つことです。

そのためにも、広島、長崎の経験を風化させず、新しい世代にも語り継ぐこと。そして、核廃絶の意識を持ったピースウィークのような取組を地道に続けていくことに大きな意味があります。平和に向けた、何よりも重要な取組にご尽力頂いていることについて、深甚なる敬意を表するとともに、私も一人の政治家として、核兵器廃絶を目指す行動を継続していくことを改めてお誓い申し上げ、牧山ひろえのご挨拶とさせていただきます。

令和2年8月

参議院議員 牧山 ひろえ



『2020ピースウィーク メッセージ』

広島と長崎に原子爆弾が投下され世界で唯一の被爆国となった日本。

死没者は50万人を超えているだけでなく、75年の時を経ても、未だに被爆の影響で苦しんでいられる方々やご家族がいる現実があります。原爆の惨禍を物語っていると言えます。

国連の核兵器禁止条約は「国際人道法に反する」として、核兵器の「開発」や「保有」それに「使用」などを禁じました。しかし、残念ながら我が国は、世界で唯一の被爆国であり、悲惨な戦火を浴びていながらも、この条約へ批准することを阻んでいます。「核兵器のない世界」を目指すことを日本の責務だと位置付けているにもかかわらずです。

連合神奈川がこれまで活動し続けてきた核兵器廃絶は、このようなことから非常に厳しい現実があります。しかしながら、日本が国際社会における責務を果たすためにも、今後も連合神奈川の皆さんと共に、核兵器廃絶を訴え続けて、実現を目指していきます。

令和2年8月

神奈川県議会議員 長友 克洋



『2020ピースウィーク メッセージ』

ピースウィーク行動の実施にあたって

世界中の人々が核兵器の脅威を認識しているにも関わらず、核兵器は未だに多く存在します。唯一の被爆国として、戦争では何も解決しないという世界の歴史的現実を学び、それを教訓として核の廃絶に向け一人ひとりが声を上げていかなければなりません。

人々は、この地球をより平和で持続可能な環境にすることに、意識を傾けていく必要があるのではないのでしょうか。

これからも、決して諦めることなく核兵器廃絶を全世界に訴えて参りましょう。

令和2年8月

神奈川県議会議員 京島 けいこ